

日本学術会議の任命拒否はレッド・ページだ！

日本学術会議の6人の任命拒否について、国会で議論が始まったが、菅首相の答弁は支離滅裂でこたえになっていない。これはお粗末の極であり、政権末期を想像させる。この人事介入について、サンデー毎日(10月25日号)が作家・保坂正康氏の寄稿を掲載している。そのなかで保坂氏は「日本学術会議の人事介入は『レッドページ』の再来である」と指摘している。私もそう思う。以下、この問題を考えてみたい。

過去のレッド・ページ＝共産党弾圧は戦争前夜だった

革新自治体の草分けともいわれる元京都府知事・蜷川虎三氏(故人)は「共産党弾圧は戦争前夜である」として、反共攻撃に毅然として闘った一人だ。その気骨は、京都府民の支持するところとなり7期28年(1950-1978)にわたって府知事として活躍した。

レッド・ページは、まさにあの忌まわしい朝鮮戦争(1950年6月-1953年7月)の前夜だった。アメリカは対ソ連、中国政策の一環として、日本を「後方基地」として北朝鮮侵略を開始した。その「前夜」がレッド・ページだったのだ。

事態を知るうえで、そのもう少し前に遡っておく必要がある。「国鉄三大ミステリー事件」と言われる、下山事件(1949年7月5日)、三鷹事件(同年7月15日)、松川事件(同年8月17日)が起きている。三鷹事件では国鉄労働者が、松川事件では東芝の労働者が共産党員およびその同調者として検挙された。

松川事件は作家の広津和郎氏らの支援により、全員が無罪となった。三鷹事件は10人の共産党員が検挙されたが、非共産党員だった竹内景助さんが「自分が単独でやった」と自供させられ、有罪判決を受け獄死した。この事件は遺族が冤罪だったとして、名誉回復を求めて今も再審の闘いはつづいている。

朝鮮戦争の最中、52年1月には北海道・札幌署の白鳥一雄警部が何者かに射殺される「白鳥事件」が起きている。この事件の主犯として共産党札幌地区委員長だった村上国治さんが逮捕され、一貫して無罪を主張したが有罪判決を受け、網走刑務所に送られた。村上さんは獄中から再審を求めつづけ闘ったがかなわず、不慮の事故死をとげている。

しかし、最高裁はこの再審の審理の過程で、「疑わしきは被告人の利益に」という、いわゆる「白鳥決定」を打ち出し、以降、冤罪事件の扉が大きく開かれ、死刑囚が無罪になって帰ってくる案件が生まれている。

民間企業でも横行したレッド・ページ

民間企業においても、レッド・ページが強行された。始まりは1950年6月6日にGHQ・マッカーサーが吉田首相に送った書簡にはじまったといわれている。この月の25日に朝鮮戦争は始まっており、直近の「前夜」だった。以降、共産党活動家の公職追放や、企業における「共産党員およびその同調者」が次々と「追放」されていった。70年経った今でも、当事者や遺族のみなさんが、名誉回復を求めてたたかっている。

70年前のレッド・ページはまさに「朝鮮戦争の前夜」だった。

そして今。形は違うが同じようなことが繰り返されていることに慄然とせざるをえない。前述した日本学術会議の委員拒否問題がその一つだ。政府の政策に批判的な人たちが6人が任命拒否を受けたが、これは明らかなレッド・ページである。任命拒否をされた方々は、戦争法や共謀罪法に反対した人たちである。

政府にとって不都合な考えを持つ人を排除したのだ。3年前、小池百合子氏が率いる「希望の党」が民主党などの議員の参加について、「排除することもある」と発言して炎上したが、(質的には少し違うが)それと同じことが行われたのである。排除・ページされた6人の方々は以下。講演を聞いたことのある人も交っている。

▼小沢隆一・東京慈恵会医科大学(憲法学) ▼岡田正則・早稲田大学(行政法学) ▼松宮孝明・立命館大学(刑事法学) ▼加藤陽子・東京大学(歴史学) ▼芦名定道・京都大学(キリスト教学) ▼宇野重規・東京大学(政治学)

いままさに「戦争前夜」が進行しているのではないか

菅首相は「政府の考えに反対する幹部職員(公務員)は異動してもらおう」と言ってはばからない。これも明らかなレッド・ページである。公務員は国民から負託された人たちである。その人を「意に沿わない」ということで排除することは法律的にみても受け入れられるものではない。

菅首相が就任早々に発言したことは、「自助、共助、公助」であり、前述の「異動」であった。その直後に日本学術会議に人事介入をしたのである。この出来事だけで、この内閣の危険な体質が見て取れる。

「戦争前夜事態」も進行している。私たちが反対してきた安保法制(戦争法)、秘密保護法、共謀罪法などの強行はその一環であろう。さらにそれを具体化したのが「敵基地攻撃論」である。これはどんな角度から見ても「先制攻撃」であり、憲法9条の立場からあり得ない考えだ。防衛予算が文教予算を上回りそうな昨今、「戦争前夜」を杞憂するのは過ぎたることだろうか。改めて今、同じことを繰り返させない運動を構築したいものである。

レッド・ページ70年を考える冊子づくり始まる

レッド・ページ問題について、(私もメンバーの一人だが)「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会(事務局)」が、冊子づくりを始め、年内の刊行をめざしている。内容的には、この会にかかわっている人の多くが新聞社関係であることから、新聞・通信社におけるレッド・ページを解明したものとなっている。

冊子は被害者の実態、労働組合も含むその闘い、全国的な運動状況——などに触れている。たとえば、新聞・通信社(NHKも含む)では49社・700人が追放されている。また、当事者が残したメモや書物をふんだんに使い、実態に迫っている。ご期待いただきたい。

同会は「国家権力の犯罪に時効はない」として、一貫して権力犯罪を告発し問題提起もしている。戦争をさせてはならないという思いからである。関心のある方はぜひ上記の「会」で検索していただくか、
URL/<http://miyazawa-lane.com/introduction.html> までお願いします。

(千代田区労協事務局長・水久保文明)

*千代田区労協通信バックナンバー/http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。